

令和7年度 発生予察情報	発生予報第13号（概要版）	令和8年1月20日発行 宮城県病害虫防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	----------------------	--

品目	病害虫名	発生予報	病害虫名	発生予報
いちご	うどんこ病	発生量：平年並	コナジラミ類	発生量：平年並
	ハダニ類	発生量：やや少	アザミウマ類	発生量：やや多

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第14号の発行日は令和8年2月17日(火)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

令和7年度 発生予察情報	発生予報第13号—いちご—	令和8年1月20日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	----------------------	--------------------------

—2月中旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:1月15~16日

天候予報:仙台管区気象台1月15日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率はやや高く(+/+)、発病株率は平年並であった。(±)
- (2)日照不足が発病に好適であり、向こう1か月の日照時間は平年並か多いと予報されている。(/-~±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	—	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(±)、寄生株率は高かった。(+/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低いと予報されている。(/-~±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	—	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率および寄生株率は平年よりやや低かった。(/-)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低いと予報されている。(/-~±)

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	—	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率および寄生花率は平年より多かった。(+/+)
- (2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年並か低いと予報されている。(/-~±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期…(+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (−)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
 発生量…(+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (−)：少なくなる要因 (空欄)：該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なので除草を徹底する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RACコードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。
- ・IPM体系による防除を詳しく知りたい方は下記アドレスにアクセス願います。

※宮城県いちごIPMマニュアル2019年版 https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/res_center/ichigo-ipm.html

・天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/boujosisinn.html>

(2)うどんこ病

・最初葉裏に発生しやすいとされるので、不要な下葉等は適切に除去し、風通しをよくする。

・多発してからの防除は困難なので、予防剤を葉裏にもよくかかるよう散布する。

(3)コナジラミ類

・多発すると排泄物(甘露)によるすす病を発生させるので、発生が多い園地では防除を実施する。

・主に葉裏にいるので、薬剤散布は葉の表だけでなく植物体全体にかかるように散布する。

・本ぼでラノーテープを用いる場合は、目安として、3ベッド(畝)毎に展張することで抑制効果が発揮される。

・ラノーテープは雌成虫が接触しないと効果が発揮されないため、作物の直上部に設置し、株から離れすぎないよう草丈に合わせて展張する。使用基準は、10aにつき 10~50 m²である(テープ 200m~1,000mに相当)。

(4)ハダニ類

・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。

・天敵製剤のうち、ミヤコカブリダニは比較的長期の効果が、チリカブリダニは即時的な効果が期待できる。天敵製剤を利用している場合は、ハウス内をこまめに見回り天敵が定着・増殖していることを確認し、状況に応じて追加放飼する。ハダニ類の発生が多い時は、放飼前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を使用し、ハダニ類の密度を下げてから追加放飼する。

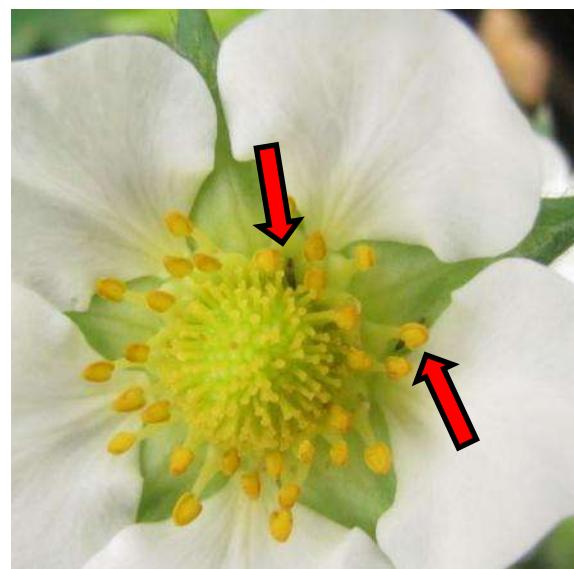
・気門封鎖剤の多くはハダニ類の幼虫～成虫に効果を発揮し、卵には効果を示さないので、最初に気門封鎖剤を散布し、ハダニの卵が孵化した後に2回目以降の散布を行う(ハダニ類は 25℃条件下で卵から3日程度でふ化、その後7日程度で成虫になる)。多発時は複数回散布する。

(5)アザミウマ類

・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。

・花をルーペで観察する、又は花を白い紙の上で軽く叩くか、軽く息を吹きかけるなどを行い、褐色～淡黄色の1～2mm程度の小さな虫がいるかを観察することで寄生状況を確認できる
(右図:イチゴの花に寄生するアザミウマ)。

・化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、ククメリスカブリダニ、リモニカスカブリダニ等の天敵の活用も検討する。



《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム